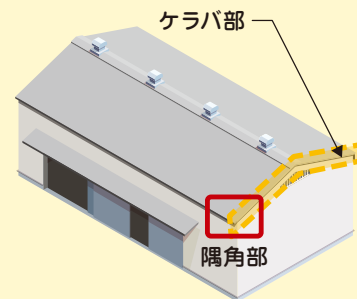


現行の折板ケラバ納めの課題とは？

折板のケラバ部は、折板本体では塞ぎきれない部分を板金加工した役物で塞ぎ、**雨・風・雪の浸入を防ぐ重要な部位**です。また、ケラバ部は前述の外部影響を最も受けやすい**屋根外周部（隅角部を含む）**であるため、ケラバ板金をしっかりと取り付け、破損を回避することが重要です。



ケラバ板金をしっかりと取り付けるには下地鋼材が必要です。

下地鋼材の設置は、板金工事に含まれる場合や、鉄骨工事に含まれる場合など、現場ごとに異なり、建物の寸法も様々です。下地鋼材を取り付ける受け設置における工程やコストなども考慮して、**各現場の状況に合わせた下地を設置**しなければなりません。

また、**ケラバ板金上面へのビス打ち**は、長期的な経年劣化による漏水リスクが懸念され、外壁側の取り付けも、風圧などでケラバ板金が飛散しないようにしっかりと留め付ける必要がありますが、外壁材でALCなどのビスが打ち難い建材品も存在します。

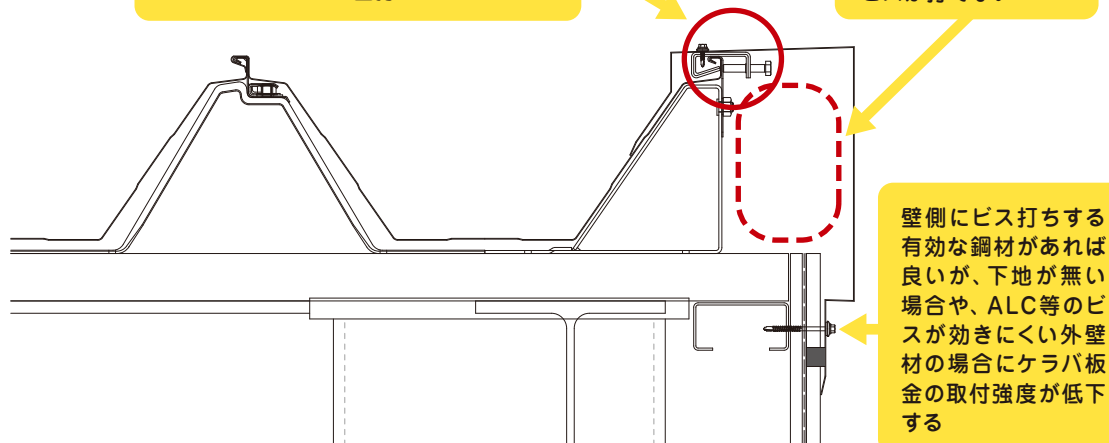
ケラバ納めの強度保持には、こうした様々な課題に対応する必要があります。

課題1 壁胴縁とハゼ金具のみで固定のケラバ板金

納め図例

- 棟金具にケラバ板金を留め付けている（ケラバの強度＝棟金具の強度）
- ビスが上面打ちしている
- 棟金具を使用しない場合、折板とケラバフレームとをビスで直打ちしている

- 有効な下地鋼材が無い
- ケラバ板金側面部にビスが打てない



壁側にビス打ちする有効な鋼材があれば良いが、下地が無い場合や、ALC等のビスが効きにくい外壁材の場合にケラバ板金の取付強度が低下する